



市民創世会
丹尾 廣樹 議員

続発する職員の不祥事や業務ミスについて

問 昨年度発生の業務ミス等に引き続き、今年度に入り税金の誤徴収、市職員のひき逃げ事案、さらには公民館職員の横領事件が相次いで起きている。その都度、市民との間で培われてきた信頼感を著しく損ねている。市長はどう考えているのか。

風通しが悪い等、組織上の問題もあり、重々今後の対応について全身全霊をかけ改善に努めてまいりたい。

また、公民館等の各種団体の公金管理、通帳、印鑑等の保管、事業監査等の定期的なチェックについては、区長会の会合の席で統一した見解の中で公金チェックの徹底をお願いした。

職場環境の整備についても、職員の意識改革をさらに進め、市民の信頼回復に努めてまいりたい。

答 市長 職員の綱紀粛正、倫理意識の保持、服務規律の徹底については、重ねて職員に対するコンプライアンス、公務員倫理等に関する研修の実施、注意喚起等を行っているが、なかなか徹底せず、この結果となった。職場の

異動を行わない職員がいたことが不祥事の背景にあると思うが、今後、職員の人事異動を



どのように考えるのか。

答 定期的な人事異動は業務の慣れや注意力の減退、前例踏襲からくる組織の不活性化を防ぎ、職場の活力の保持のため、重要と考えるが、一方では、縮小する地域経済の中で、いかに魅力ある地域を創出するかが大きな課題である。そうした中、目的意識を持ち、自己管理、自己決定ができる職員の必要性が高まっている。厳しい財政の中、限られた財源や人材を有効にいかすために、今後とも適材適所で人員配置を行う。



公明党
遠藤 隆 議員

男女共同参画社会の意識の浸透について

問 市における男女共同参画の推進状況は。

答 第4次鯖江市男女共同参画プランに基づき、78実施事業141項目に取り組んでいる。毎年7月に男女共同参画審議会を開催し、各課が取り組んだ各事業の評価をいただきながら実施している。

姿も随所に見られ、男女の特性をいかした活動が浸透してきている。これからも、男女の特性をいかしたまちづくりに努力していく。

問 男女共同参画都市宣言10周年記念事業について。

答 市長 「女と男輝くさばえフェスタ」を運営する男女共同参画ネットワークも設立10周年を迎えるので、これを共通の記念事業として位置づけられるよう相談している。

答 主に女性の社会参加と男性の意識改革の啓発に重点を置いて施策を遂行。特に市長が国連でのSDGsの演説で発表したJK課、OC課、SBE80など幅広い年齢層の女性が

活躍する場に広がりを見せている。また、その活動を支える男性の姿も随所に見られ、男女の特性をいかした活動が浸透してきている。これからも、男女の特性をいかしたまちづくりに努力していく。

活躍社会の目標を定め、いく必要があると考えており、市内の多くの議論、課題を可視化することで、女性活躍社会の実現のための環境づくりを図るため、女性活躍推進計画を立てることとした。その中で、女性の管理職の登用率、女性による政策決定や経営陣における女性リーダーの位置づけをどのようにするか、またキャリアママの雇用の確保や事業所におけるワーク・ライフ・バランスの取組をどのようにするか。また、20代から40代後半は、世界的に見ても鯖江市は非常に高いことなど、そういった実態や課題を数値化、可視化し世界発信のロールモデルを女性活躍推進計画の中に取り込んでいきたい。